喜びの言葉

虫の音に深まる秋を感じるこの良き日、荒川区立原中学校は創立三十周年を迎えました。この記念すべき年に在校生であることをとても嬉しく思います。

この三十年間、先輩方が築いてきた伝統は、今も引き継がれています。それは、何事にも一生懸命取り組む姿勢です。

春の運動会。全力で競技や係の仕事に取り組み、仲間と団結することで、何にも代えがたい達成感が得られることを学びました。原中の伝統の一つとなった原中ソーラン。ソーランリーダーを中心に全校生徒で作る踊りは、迫力があります。今年は、南中ソーランの歌い手である伊藤多喜雄さん、津軽三味線の山中裕史さんをお招きして、生歌唱、生演奏と共に踊りました。節目の年にふさわしい、気持ちの込もったソーラン節となり、今でも私たちの心の中に残っています。

そして、秋の文化祭。合唱コンクールでは、クラス、学年で心を一つにし、美しいハーモニーを奏でます。どのクラスもゴールド金賞を目指し、日々練習に励みます。また、部活動や代表生徒による発表も行います。練習では上手くいかないことや、意見がぶつかることもありますが、一人一人が本気で取り組み、本番は皆で感動を共有する時間が生まれます。

「一生懸命」の姿勢は、行事だけではありません。生徒会活動も、活発に行われています。例えば生活委員会はチャイム前着席を目指して声掛けを行っており、チャイムと同時に授業が始められることも、原中の伝統となっています。そのほかにも、学校をきれいに保ち、過ごしやすい環境を作るために活動をする美化委員会など、どの委員会もクラスや学校に貢献しようと、責任をもって行動しています。中央委員会では、代表生徒が学校をより良くしようと話し合います。現在の課題から解決策を考え、それぞれが意見を出し合うことによって、少しずつ改善されている手ごたえを感じています。

原中生が大好きな部活動では、各部活動が目標に向かって一生懸命練習しています。仲間と切磋琢磨することで自分自身の成長を実感できることは、大きなやりがいです。大変なことも乗り越えられるのは、支え合える仲間がいるからこそではないかと思います。

このようにして私たちは、この原中学校を、一歩一歩、前進させています。

原中学校創立三十周年という節目の年に、これまでの伝統を引き継ぎながら、これからの原中学校をより良くしていくための、生徒会目標を決定しました。

その名も、「サハラソウ」です。サクラソウと原中学校の「原」をかけて名付けられました。校章のモチーフであり、校歌の歌詞にもあるサクラソウをイメージした形になっています。一つ一つの花びらに表された五つの理念を大切にし、実現していくことで、原中学校に笑顔の花を咲かせたいという決意が込められています。

一つ、尊重。お互いを認め合い、それぞれがもつ良いところを大切にしていくことで、個性あふれる優しい学校作りをしていきます。

一つ、思考。自ら考え、その考えを色々な方向へ広げつつ学びを深め、共に成長していきます。

一つ、自立。自主的に行動を起こし物事を進めていく力を養います。

一つ、継続。諦めずに一つの物事をやり遂げることや、伝統を引き継いでいくことを重んじます。

一つ、協力。自主的に行動し解決していくことも大切ですが、一人で抱え込むことが自立ではありません。ときには人に頼り、学び、成長していく過程が必要です。「協力」とは、力を合わせて難題を乗り越えていくことや、困っている人には手を差し伸べることなど、助け合いの精神を意味しています。

これら五つの理念を大切にし、笑顔を増やしていくことが、創立三十周年の原中生徒会目標「サハラソウ」です。笑顔あふれる学校をつくるということはそう簡単ではありませんが、生徒一人一人の心がけで少しずつ変えていけるはずです。

創立三十周年を一つの節目とし、次の十年、二十年へと伝統が受け継がれることを信じて、私たちの想いを託します。

私たちが今、日々充実した学校生活が送れているのは、今まで原中を作り上げてきた先輩方、先生方や地域の皆様のおかげです。支えてくださる多くの方の想いを胸に、より良い原中学校へと発展させていく決意を新たにし、喜びの言葉といたします。

令和六年十月十二日　**第三十代生徒会長　福地　美里**　**第三十一第生徒会長　並崎　杏奈**